

【居宅介護】

どのような機関や人とネットワークを持っていますか。あるいは今後どのようなネットワークが必要だと思いますか。

1	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科病院の医師及びソーシャルワーカー・民生委員 ・地域の保健師・就労センター・精神のグループホーム及び作業所 ・介護保険適用、通所・入所施設及び訪問事業所 ・今後地域包括支援センターの見守り等支援体制の整備。これに必要な費用確保が必要
2	民生委員とのネットワークが必要であると思われる
6	認知症センターやもの忘れサポートセンターはすぐ思いうかびますが、介護者さんにとってピアカウンセリングの場が大切な場となっていると思います。
7	認知症外来の医師。今後は地域の方(民生委員など)とのネットワークが必要
9	若年性の場合、成人していない子供をもっておられる事も多く、地域民生委員、児童福祉委員、学校関係者、行政、福祉関係及び医療機関との総合サポートのネットワークが必要と思われる。
11	地域住民も含めた認知症ケアに対する研修会を持つ事や支え合う人達との会合を持つ。
12	行政の若年認知症に対する啓蒙活動により、人々に病気の理解を求めます。同時に早期発見・早期治療にもつながります。主治医(専門医療機関)との連絡を密にとり、サービス事業所、市町村の担当課、包括支援センターとのネットワークは必要だと思いますが、地域での理解・支援が不可欠になると思います。
13	もの忘れサポートセンターしが、専門医等のネットワーク。地域の家族会。
18	<ul style="list-style-type: none"> ・専門医療機関の医師・相談員 ・行政 ・地域の関わり(個人情報絡み難しさを感じる)
22	ネットワークはない。
24	同法人に認知症指導者がいるので相談している。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・この管内は精神科が少ない！Dr.を増やすなど検討して頂きたい。 ・受診もなかなかできない人も多いと思います。
27	若年・軽度認知症専門自立型デイサービス事業所や認知症の人と家族の会、専門外来とのネットワークが必要になると思う。
28	<p>持っているネットワーク</p> <p>主治医、認知症デイ、行政、病院の相談室、民生委員、認知症専門指導者など</p> <p>「今後」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か作業のできる場所(初期の段階ではまだ仕事もしたいとか内職をしたいとか言われる方もある) ・家族の会
29	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター ・市、保健師 <p>今後は家族会の組織化、訪問相談活動等のサポートシステムづくりが必要</p>
30	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症専門の医療機関 ・認知症専門の介護サービス施設 ・認知症外来のある病院 ・認知症対応型のデイサービス ・地域・社会のネットワーク作り ・認知症専門デイサービスの関係者とのカンファレンスや関連機関との連携 ・困難事例に関して地域包括支援センターの充実はかせない。
31	<p>市役所(介護課、福祉課等)、各病院の医師・看護師等他事業所のケアマネジャーからの情報等で対応している。</p> <p>専門医療機関の情報をもっと集まり、迅速に対応できる事が必要。</p>

【居宅介護】

どのような機関や人とネットワークを持っていますか。あるいは今後どのようなネットワークが必要だと思いますか。

32	地域包括支援センター、認知症の専門病院、民生委員、市町村、グループホーム、その他の入所施設 <必要なネットワーク> 権利擁護センター、高齢者総合相談センター、弁護士、NPO、社協、精神科医
36	障害者支援ネットと連携と、自立支援法とのクロスネットワークの構築をしてゆきたいと考え、交流の場や研修会に積極的に参加しています。
40	医療機関、サービス事業所 民生委員、ボランティア等特に近隣との関わり
41	行政、地域包括センター、サービス事業者
42	かかりつけの主治医は内科がほとんどで、認知症の正確な判断は難しいと思います。主治医からまた家族やケアマネから専門医療機関にもっと気軽に相談できれば助かるのですが。
45	サービス事業者、地域包括支援センターとの間で手探り状態で支援を進めている状況(地域によっては充実しているところもあるとは思いますが)。 専門的な機関が関わっていただくか地域包括支援センター自体がそういった機能を持ち合わせていただくかして有効適切な支援が実施できるための体制
46	専門医療機関始め認知症研修を定期的に行い、知識を得る必要がある。 当事業所として「介護者のつどい」を開催し「認知症の人と家族の会」より講師として参加いただき、家族同士が同じ立場で意見を言い合える場づくりを提供しています。
48	地域の理解を求めたいのだが、まったく地域のネットワークがない。
49	サロン(認知症)ボランティア(見守り)ネットワークの設置
51	・地域包括支援センターが熱心に相談にのってくださり、助かっております。 ・主治医もよく相談にのって下さいます。
52	福祉との連携
55	その方の近所の人(距離として近い)
57	専門医療機関と家族、ケアマネ、通所事業所等との連携が必要だと思います。
58	医療、中地域包括支援センター、基幹型老人介護支援センター等相談できる機関、家族会
59	家族会、地域包括支援センター、保健所、専門医
64	介護保険外のサービスを取り込んでいく必要があると思います。また、ボランティアの育成にも力を入れてほしいです。
66	認知症専門医、認知症専門デイなどの事業所、グループホーム
67	認知症の専門医療機関、グループホーム、通所介護
68	友人、所属するサークル、組織、家族、カウンセラー
69	・専門機関(医療)と連携できる窓口、キーパーソンを持っています。 ・家族の理解と行動が伴わないと専門医療機関への受診、対応、処方薬等の施術が上手く進みません。専門機関への受診が放置されないよう広告、PRなどがもっと必要と考えます。
70	医療機関
71	サービス事業者
72	・各地域包括支援センター ・専門医 ・ソーシャルワーカー ・各事業所等で気軽に相談できるような場所、会などがほしい。
74	現在 主任ケアマネ、もの忘れサポートしが、主治医、もの忘れサポートセンターしが 今後 「もの忘れサポートセンターしが」が各市町村に1箇所ずつあれば良い。

【居宅介護】

どのような機関や人とネットワークを持っていますか。あるいは今後どのようなネットワークが必要だと思いますか。

78	<p>・行政 - 包括支援センター、保健センター(保健師、栄養士)</p> <p>・福祉 - 介護スタッフ、施設スタッフ</p> <p>・地域 - 民生委員、自治会長、家族会、キャラバンメイト</p> <p>・医療 - 主治医、看護師、理学療法士、作業療法士</p> <p>医療との連携について - 外科・内科医になると認知症の理解に欠け、治療や検査を必要としてくれない。主治医を無視して専門医の受診を行うことは難しい。医師の側から専門医に紹介するなど対策をとってほしい。早期発見をしても早期治療に結びつかず悪化進行している。</p>
79	現在は若年認知症の方に対応する専門機関やネットワークがない状況です。
81	地域で活動している住民の方(民生委員さんなどを中心に)と行政、警察の方、各介護保険サービス事業者、医療機関やコンビニなどその方(利用者)を取り巻く人々とのネットワーク作りをケアマネと包括支援の担当者を中心として作れる体制づくりが必要
85	おおいに必要であると考えます。
90	認知症をよく知る医師との連絡・連携はあり、行政窓口との対応はあるが、事例や情報が少ない為、今後も介護保険での対応もされる方向から多くの情報そして経験が得られる機関がほしい。
91	<p>専門医・物忘れサポートしが・家族会・地域の民生委員や自治会・地域包括支援センター・グループホームや介護サービス事業所・権利擁護事業や成年後見制度など、その他必要な資源はフルに活用するように努力している。</p> <p>- 今後 -</p> <p>以上のようなサービスを誰もが利用・活用できるようにもっとオープンにする。また社会資源として存在している医療・福祉・司法サービスや専門職や市民・家族・本人がお互いに繋がりあえる機能(システム)づくりが大切では誰もが認知症になる可能性がある。認知症になっても安心して暮らせる地域は誰もが安心して暮らせる地域である。</p>
92	専門医療機関、地域住民同士の見守り体制
93	<p>市および主治医、専門医。地域を含めての見守る体制が必要。</p> <p>現在若年認知症の方はないが、高齢者の認知症の方は専門医療機関の主治医とコメント連絡にかえている。またデイサービスも認知症デイサービスを利用されており、利用時に本人がどの様に過ごされているかを家族と連絡をとりながら普段の状況が見えやすいように考えいる。</p>
94	もの忘れ相談
95	もの忘れサポートセンターしが
97	・認知症センターの医師と常に連携(定期的にサービスや自宅での様子を報告し助言を求める。)
99	<p>・家族の会の充足と活用できる体制づくりの強化(市町村にあっても形ばかりで参加された家族は次も参加したいと思ってもらえなかった)</p> <p>・認知症専門医と地域医療機関とのネットワーク作り</p>
101	認知症専門病院医師、相談員、デイケアスタッフ、民生委員、通所介護スタッフ
102	「もの忘れサポートしが」は身近に感じる。市町村ごとにこのような形のネットワークがあればと考える。信頼できる人とのネットワークは必要である。
104	<p>・医療機関にももの忘れ外来があるらしい。</p> <p>・各市町村の認知症をもつ家族の集まり、相談(月1回)。</p>
105	<p>包括クリニックともの忘れサポートセンター。</p> <p>複数の医療機関や主治医を持っている方の医療面での総括としてもらえる機関。</p>
111	認知症センターの方や関係事業所、施設など。
112	もの忘れサポートセンターしが、認知症専門医。
113	<p>医療機関、介護事業者、行政、社協、民協(民生委員)</p> <p>現在:機関、組織とのつながりがあるが、個人(各種分野)とのつながりがうすい。</p>

【居宅介護】

どのような機関や人とネットワークを持っていますか。あるいは今後どのようなネットワークが必要だと思いますか。

114	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の方、民生委員、日赤奉仕団、家族の会、郵便局、水道企業団、権利擁護担当の方、診療所、配食サービスの方、友人。 ・地域のお店の方。
115	若年認知症の相談機関と若年認知症に対応できるサービスと連携できるネットワーク。
116	もの忘れサポートセンターしがを中心とした学習会・研修会。 各市のケアマネ会議。
117	<ul style="list-style-type: none"> ・もの忘れサポートセンターしが ・滋賀県社会福祉士会等 ・上記2つとのネットワーク等
118	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医 ・サービス事業者
121	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携できるネットワークを行政(地域包括支援センター)主導で構築してほしい。 ・認知症に対する偏見差別等がまだある。啓発活動や長年住み慣れた地域での見守り、民生委員・福祉関係者がバックアップできる体制作りが必要。具体的には、ケアマネが地域で中心になって声かけカンファレンスをして、1歩1歩底辺作りが大切である。 ・本人の受診拒否や家族の世間体での拒否が多いので、まずは情報収集できる、気軽に相談できる機関や人脈が必要だと思う。
122	主治医
123	<ul style="list-style-type: none"> ・専門医、主治医、主任ケアマネ、包括支援センター職員、民生委員、近所の方、もの忘れサポートしが他 ・デイ仲間の中での存在意義を見出すだけでなく、家族、地域社会での居場所が見出せ、何かの役に立てる、それを支えてくれる近所、町単位での見守りやサポートできるネットワークが必要と考える。 ・現在は地域包括、もの忘れサポートセンターしが、認知症対応型のデイなど。 ・利用者や認知症研修会などを通して、地域の関係者や専門医、ケアの現場など広げていきたい。 ・認知症サポートセンターを知っていて相談している。 ・地域のネットワーク。 ・認知症専門医や認知症対応型のサービスがどこにあるかは知っているが活用までは至っていない。
125	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師、社会福祉士、ケアマネが一人の若年認知症の方に一人ずつ担当し、役割分担と個々の相談相手が明確となり総合援助できる。 ・ネットワーク。 ・主治医との連携。 ・弁護士
127	専門医療機関への相談、家族へのアドバイスをお願いしたり、保健所へ行って精神障害者の施設、受入条件や状況や方法など、どのようなものがあるか相談することもある。
129	介護支援センター。地域包括支援センター。病院の継続看護室。
130	現在なかなか連携がとれていないが、今後認知症専門医、サポートセンターとの連携が必要。
131	<ul style="list-style-type: none"> 認知症センター、市社協(心配事相談員)、生活福祉課、交番、デイ、ショート、福祉用具、民生委員、隣人、親戚。 ・企業や町に心配事相談所。 ・若年認知症のデイ、ショート(現在のデイを少し仕切って専門相談員による対応)
134	介護サービス事業者、地域社協、保険者、地域包括支援センター、専門医療機関、もの忘れサポートセンターしが、民生委員(必要時)、他の居宅介護支援事業者
135	介護家族の会、介護保険、通所介護事業所(認知症受け入れ可)、訪問介護、包括支援センター
136	専門医

【居宅介護】

どのような機関や人とネットワークを持っていますか。あるいは今後どのようなネットワークが必要だと思いますか。

137	保健センター、専門の医療機関、他のサービス事業所、地域包括支援センター (今後) ・早期発見につながるよう保健センターや在宅介護支援センターの復活を望む。 ・地域の人 ・一般の開業医の理解 ・若年認知症の人のサービス事業所
138	必要なネットワークとして、だれもが気軽に相談できる機関と、そこから適切な医療機関や事業所へつながられる形で、それぞれ常に連携体制をとっているという関係。若年なら若年に特化した形でもよいが、様々な利用者に対応できるよう情報の蓄積とサービスを実施できる体制がほしい。
140	本人が安心して過ごせるような、また対応していけるネットワークが必要。
141	認知症の専門医療機関への相談 介護者の精神面もフォローできるようなネットワーク
143	専門医療機関
145	家族や周囲の人の理解を進めるための相談機関。 若年認知症の方の当事者そして家族会。 若年認知症の理解を進めるための住民を含めた研修。
146	主治医と事業所と家族(本人)を含めたネットワークを一応考えている。認知症に対するさまざまな症状や問題行動に関して相談できる窓口で、もっと地域や家族の人が知識を持つことができる機関があればと思う。
148	若年認知症の家族会、身近にあればよい。
149	地域の人との連携 - 家族、事業所 ・民生委員、字の人、お寺、隣人 ・見守り、声かけ ・積極的、継続的には難しい。
150	退院後、少しでも希望を持って生活できるよう機能訓練。 施設や勤務先、家族会などとの連携が必要である。
152	MSW や地域包括、通所系事業所との情報の共有。
153	今回関わっている利用者については、近所の開業医、専門の医療機関等快く相談にのっていただき、元職が看護師であったこともあり、病院への拒否も強かったが、介護者の受診の付き添いという形で話をし、なんとか受診することができ、また細かいことでも話を聞いていただけとても助かった。
154	現在は若年認知症の方を受け持っていないので、ケースを通してのつながりはないが、高齢者の認知症の方と関わる中で、専門医療機関(もの忘れ外来・老年神経内科等)や認知症の人と家族の会との顔なじみをつくっておくことが、今後に繋がられると思い、関係性を高められるよう心がけている。
155	地域包括支援センターを中心に、医療・福祉の各専門機関(スーパーバイザー的)のチームがあればよい。
156	保健センター、地域包括支援センター、認知症の人と家族の会(家族支援)
157	特に持っていないので、困ったときには地域包括支援センターに相談することになると思う。 今後市町村で実施されている住民検診等で認知症予備軍の簡単な検査が行なわれたり、主治医による早期発見が望まれる。
158	医療(専門機関)、地域の関わりが必要である。
163	市町村社会福祉協議会 社団法人認知症の人と家族の会 子弟対象・配偶者対象のピアカウンセリング 本人対象のピアカウンセリング

【居宅介護】

どのような機関や人とネットワークを持っていますか。あるいは今後どのようなネットワークが必要だと思いますか。

169	地域包括支援センター、すこやか相談所、民児協、市社協、学区社協と地域ケア会議にてネットワークを構築している。 今後、実働部隊として地域ケア会議への学生参画が望まれる。
170	認知症専門医との連携と各サービス事業所との密な連携が必要だと思う。
171	何かあれば相談先(かかりつけ医、認知症センターまたは専門医療機関、地域包括支援センター、市町村の担当課、他のサービス事業所)内で対応している。
173	他のサービス事業所、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの方々に相談、助言を受けることはできるが、若年認知症の方を担当したことがないため、今後このケースを担当するときには不安。
174	・認知症専門の医療機関との連携 ・介護支援専門員の仲間への相談 ・地域包括支援センターへの相談 ・市高齢福祉課への相談
175	地域の医師、保健師と連携できる。
177	行政の担当者、デイサービス、ショートステイの方と話し合いながら今後のことを検討している。
179	認知症の方は、とりあえず専門医と連携をとって、状況を介護サービス、家族などに正しく理解し、チームでケアしていけるようなネットワーク作りがスムーズにいくといいなあと思う。
181	・どうしてもなく困ったときには安心して相談にのってもらえる医師や知人(関係者)がいる。 ・地域の人の中には、認知症の人をバカにしたような態度や言葉を平気で言う方がまだまだいる。もっと病気に対する理解をしてもらえるようにすることが必要だと思う。
184	学区ごとの居宅ネットワーク
187	地域包括支援センター ・若年認知症は対象者としては過去に例がないため、どのようなネットワークが必要かどうか不明な点もある。具体的な勉強会などがあればよいのではないかと考える。 ・若年であるため、本人および家族への心のケアも含めた支援がより細やかに必要である。地域や家族会などのサポートが中心的に確立することが望ましいと考える。
190	専門医療機関との連携を密に取ること、地域ぐるみでの支援が必要と思われる。
193	担当経験がないので、今具体的にどのようなネットワークが動いているのかはわからない。 認知症を病気として携えるなら、医師からも具体的なケアの方法も提示があった方がよく、センター方式ベスト的な発想で動かない方がよいと思われる。 本人を中心として、家族や医師、行政、近所の住民でネットを組むのがよいであろう。家族が近所の人に本人の認知症を公表する勇気が必要である。
194	認知症外来のある医療機関や地域包括支援センターとのネットワークを持っている。しかし、これだけでは不十分であり、やはり住んでいる地域(自治体単位)である程度本人をサポートできるような地域住民とのネットワークも必要ではないかと思う。また、年齢も若いこともあり、仕事、作業能力も高いと考えられるので、ボランティア団体や施設あるいは企業などともネットワークを作り、働ける環境作り(生きがいづくり)のサポート。
195	民生委員、保健師、包括支援センター等と相談している。若年認知症に対応できるネットワーク。
197	「認知症は病気である」ということをもっと住民に啓発し、少しでも偏見を減らす必要がある。
198	・認知症対応型デイサービス ・家族を通しての警察への徘徊対応 ・専門医療機関
206	認知症教室は各町にあるが、縮小傾向にある。
207	認知症勉強会などに参加。専門医に問い合わせる。